

同窓会



兵庫県立大学創立10周年・創基85周年 おめでとうございます

淡水会会長 池野 忠 司

この度、兵庫県立大学創立10周年・創基85周年を迎えることを心よりお祝い申し上げます。

淡水会は、兵庫県立神戸高等商業学校・兵庫県立神戸経済専門学校・神戸商科大学・兵庫県立大学（神戸商科キャンパス）の同窓会で、昭和7年に神戸高等商業学校第1回卒業生によって設立されました。現在、会員数は約27,000名で、神戸商科キャンパスにある本部のほか、国内18支部、海外3支部（ニューヨーク、ロサンゼルス、ジャカルタ）で活動を行っております。同窓会誌の発刊は一時途絶えた時期がありましたが、昭和36年に『淡水』として復活し、現在、発行部数は13,000部に達し、第60号まで巻を重ねています。

会員相互の親睦を図るため、各支部において各種の行事を催しておりますが、本部においては、1月に新年会、6月に会員総会を開催しています。会は校歌・学歌の斉唱で締めくくられますが、数年前から、神戸高商校歌、神戸商科大学歌に加え、兵庫県立大学学歌が歌われるようになりました。まだ、県大学歌を歌う会員は少数派ですが、いずれ県大学歌が主流となります。同窓生でありながら、校歌・学歌を共有できないことは残念ではありますが、同窓会も新しい時代を迎えることと前向きに捉えております。

伝統を守って行くことも大切ですが、新しい歴史を築いて行かなければなりません。兵庫県立大学が創立10周年を迎え、さらに発展し、飛躍して行くため、淡水会と致しましても、学友会と協力し、微力ながらお役に立ちたいと考えております。

最後となりましたが、関係者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

1. 同窓会の歩み

同窓会組織は、第一回の卒業生が出た昭和7年7月16日に発足した。母校が、眼下に明石海峡を隔て、淡路島を望む風光明媚な垂水高丸丘に所在したこと、荘子にある「君子の交わりは淡きこと水の如し」と重ね「淡水会」と命名された。初代会長には母校の伊藤真雄校長、幹事総代に卒業生を代表して町田潔氏が選ばれた。昭和12年10月伊藤校長のご逝去に伴い、原口亮平新校長が会長を継承され、昭和16年二宮丁三校長が会長に就任された後、会員の中から選出された常議員と幹事で運営されることとなった。

その後、昭和23年学制改革により母校が神戸商科大学に昇格する前年に組織を改め、会長を淡水会員から選ぶことになり初代会長に井沢武樹氏が選ばれた。歴代会長は（表1）のとおり現在の池野忠司会長は13代目となる。

母校の発展とともに主な節目を振り返る。昭和22年に中断していた「会員名簿」、昭和36年に「淡水」復刊創刊号、昭和54年には「神戸商科大学50年史」を発刊した。高木正雄元学長の「若い研究者の研究の足しになり、人材流出を防ぐために役に立たないだろうか」との考えで、昭和

56年、有力企業の賛同を得て「神戸商科大学後援基金」が発足した。平成2年創立60周年を契機に学舎を垂水高丸丘から神戸研究学園都市に転じたことを記念し、神戸商科大学学舎移転記念アルバム「高丸丘惜別譜」を発刊した。これを受け、平成19年「商大跡記念公園」内に「記念碑」が建立された。平成21年には、創立80周年記念祝賀会を開催し、記念事業として淡水会員の交流の場となる「淡水サロン」を神戸市中央区に開設した。



高商校旗

淡水会



神戸商科大学50年史・高丸丘惜別譜

平成16年4月兵庫県立大学開学以降、併存していた神戸商科大学は、平成22年3月最後の卒業生を送り、翌年の平成23年1月神戸商科大学閉学式を執り行い、歴史と伝統を兵庫県立大学に継承した。(表2)

2. 事業概要

淡水会規約に「会員相互の交誼を篤くして、母校の発展に資し、併せて社会に貢献することを以って、その目的とする」と謳われている。これに則した、具体的な事業、活動状況など簡単に紹介する。

(1) 本部活動

○新年会、年次総会・懇親会開催

全国の会員を対象に年初に新年会、6月に年次総会・懇親会を開催している。常任理事会で審議された議案を総会に諮り、年度事業計画・活動方針など重要事項を決議する。

懇親会では、90歳前後の神戸高商卒大先輩から20歳代の兵庫県立大学卒業生まで、全国の会員が集い、学生時代に戻って懇親が深められている。

○卒業祝賀会協賛

学位記授与式後、「卒業祝賀会実行委員会」(学生主催)



総会・懇親会 (平成26年6月)

のもとに「卒業祝賀会」を共催し、一昨年からはホテルでの開催とした。「卒業生-新淡水人-」の社会への門出を祝い、本年は、学部生・大学院生、教職員、OBが集い、総勢470名の参加者で大いに盛り上がった。



卒業祝賀会 (平成26年3月)

○同窓会機関誌「淡水」の発行 (年刊)

総員17名の編集委員・事務局は、担当副会長・編集長のもと「淡水」61号の編集活動に入った。6月以降、毎月の編集会議で意見を重ね、会員から幅広く原稿を募集し3月に発刊する。新たな課題は、学生からも「読みたい」「役に立つ」と思われるような誌面づくりである。その実現に向かって、学生にもオブザーバ参加で協力願っている。

○「会員名簿」の編纂

同窓会活動に資するため、4年を目途に改刷・発刊している。個人・職域など、会員の動静把握に努めデータを整備し、「淡水会個人情報保護規定」に則り、適切に管理・運用している。



同窓会誌「淡水」

「淡水会会員名簿」

○会員向け「淡水会ホームページ」での広報

本部・支部、大学・神戸商科キャンパスの行事・活動などをタイムリーに情宣し、本部・会員間、会員同士の相互交流を図っている。

URL : <http://www.tansuikai-jimukyoku.org>

○「淡水サロン」の運営・管理

淡水会員(学生・教員・同窓生)の交流の場として、各種打合せ、同期会、ゼミOB会、セミナー、サテライト教室等に利活用されている。利便性が高く、月間述べ300名



就活セミナー風景（平成26年1月）

近い淡水人、学生などが訪れている。

○「淡水会資料展示室」の維持管理

80周年記念事業の一環として収集した高商・経専、商大時代の様々な懐かしいメモリアルグッズを展示・保管している。今後、内容、設備など充実させていくことが課題である。

○「淡水の森」「記念碑」など維持管理への支援

平成2年春、当時の能勢哲也学長から学舎移転の記念として将来的に学生の憩いの場にしたいとの理由で「淡水の森」に植樹依頼があり、淡水会にて記念寄贈した。神戸商科キャンパス内に様々な記念碑、記念植樹がある。商大跡記念公園内の記念碑も合わせ、大学とともに維持管理に努めている。

(2) 支部活動

地域ごとに、新年会、総会、懇話会、昼食会、工場見学会、定期演奏会、俳句会、ゴルフ会、ハイキングなど様々な活動が展開されている。また、入学（卒業）年次同期会、ゼミOB会、クラブ活動（文化部・体育会）等のOB会、業種別淡水会、職域支部など活発な交流が図られている。



稜線山岳会「神戸商大奥飛驒ヒュッテ」（平成26年9月）

(3) 学校・学生向け支援活動

○「淡水会後援基金」による助成

教育・研究活動や国際交流・海外派遣研修、学術研究著書出版などへの助成を目的として、毎年助成金を支給している。平成26年度は、13件の助成が決定された。

○シンポジウムへの協賛

兵庫県立大学「知のシンポジウム2014」や各種講演会・

シンポジウムなど、教職員・学生との交流などに協賛し、円滑な実施にむけ支援している。

○神戸商科キャンパス学術情報館への図書寄贈

学術情報館の蔵書充実に資することを目的に、毎年「淡水文庫」購入費を贈呈している。また、60周年を記念し寄贈された瀧川文庫「ヒックス文庫」（同館所蔵）は、貴重な研究資料としてヒックス学術研究に貢献している。

○「現代企業を学ぶ」経済学部講座の開講（連携）

企業活動やビジネスに対する学生の理解を深めることを目的とした産学連携講座に、学校と一体となって取り組んでいる。平成17年度の開講以来毎年続き、平成26年度は三井住友銀行などで開講、平成27年度は株式会社ノーリツで決定している。

○学生の就職活動支援

現役学生にとって重要課題といえる「就活」に、同窓会組織をフルに活用した様々な支援活動を、学校・キャリアセンターと三位一体となり積極的に展開している。

具体的な活動は次のとおりである。

① OB / OG 学生交流会

学生が主体となって企画し、キャリアセンターが主催する交流会への参加企業の選定、若手の社会人先輩の招請など、企画・運営を支援している。平成26年10月開催の交流会には37社39名の若手社会人、80名の学生が参加し、座談会形式で活発な質疑応答がなされた。学生・OB/OGの双方から、また、教職員や学校からも高い評価を得た。



OB/OG 学生交流会（平成26年10月）

② 就活セミナー開催

平成26年1月、先輩が後輩のために熱く語る「淡水2013就活セミナー」を開催した（於 淡水サロン）。内容は随分と分かりやすく、極めて有意義なセミナーとなった。



③ 就活支援プログラム

経験豊かで親切・丁寧な支援スタッフが常駐し、「淡水会員名簿」により、希望職種、希望会社、卒業生などをデータベースから検索し情報提供している。

○クラブ活動などへの支援

陸上競技部「丹後大学駅伝」、軟式野球部「西日本大学軟式野球選手権大会」など活躍するクラブ活動に対し、大会参加費などの支援を行っている。

3. 淡水会事務局

所在地

〒651-2197 神戸市西区学園西町8丁目2-1
 兵庫県立大学 神戸商科大学キャンパス内
 TEL 078-795-1020 FAX 078-795-4020
 スタッフ 3名
 E-mail : tansui@gk.u-hyogo.ac.jp
 URL : http://www.tansuikai-jimukyoku.org



(表1) 歴代会長一覧表

役職	氏名	役職	氏名	卒年	在職年度
会長	伊藤 真雄 校長	幹事総代	町田 潔	K 1	昭和7年
会長	原口 亮平 校長	幹事総代	町田 潔	K 1	昭和12年
会長	二宮 丁三 校長	幹事総代	町田 潔	K 1	昭和16年
		幹事総代	井沢 武樹	K 1	昭和19年
役職	氏名	卒年	役職	在職年度	
初代会長	井沢 武樹	K 1	(株)阪神内燃機	昭和22年	
2代	松田 俊二	K 1	(合)松田文蔵商店 社長	昭和24年	
3代	今井 逸男	K 1	関西紙業(株) 専務	昭和30年	
4代	北野 精一	K 1	日本触媒化学工業(株)	昭和30年	
5代	北浦喜一郎	K 2	野村證券(株) 社長	昭和39年	
6代	松村信次郎	K 2	(株)松村石油 社長	昭和40年	
7代	長谷川政二	K 3	長谷川機工(株) 社長	昭和46年	
8代	岡部 誠一	K 1	(株)そごう 常務取締役	昭和52年	
9代	中山 育雄	K 6	(株)中山製鋼所 社長	昭和55年	
10代	槌橋 秀一	K 12	日本ローソク(株) 会長	昭和61年	
11代	中内 功	K 11	(株)ダイエー 創業者	昭和63年	
12代	瀧川 博司	G 6	(株)兵庫トヨタ 社長	平成12年	
13代	池野 忠司	G 18	(株)オイシス 社長	平成22年	

(表2) 淡水会の歴史

年	月	活動内容
昭和7年	7月	「淡水会」設立
昭和22年		淡水会員より会長」選出 「会員名簿」発行
昭和25年	7月	海浜学舎設置
昭和36年		同窓会誌「淡水」再生復活
昭和40年		支部補助金支給開始(14支部)
昭和44年		「名簿」「淡水」に広告協賛システム開始
昭和54年	3月	「神戸商科大学50年史」発刊
昭和55年	10月	セミナーハウス(旧 海浜学舎)開所式
昭和56年	7月	「神戸商科大学後援基金」発足
平成3年	2月	「高丸丘惜別譜」(神戸商科大学学舎移転記念アルバム)発刊
平成3年	11月	ヒックス文庫(瀧川記念文庫)寄贈:瀧川 博司(G 6)
平成5年	4月	財団法人 神戸商科大学後援基金(仮称)設立のための募金開始
平成10年		準会員制(入学時に入会金・終身会費納入)
平成15年	4月	講座「産業政策論」を淡水会にて担当
平成19年	4月	会計学講座に寄贈(100万\$+a):坂本ゼミ一同(代表世話人:中内 力(G 3)、大谷 勉(G 3))
平成19年	7月	旧学舎跡地の商大公園内に「記念碑」建立
平成21年	6月	淡水サロン開設
平成21年	6月	神戸高商創立80周年記念祝賀会
平成23年	1月	神戸商科大学(閉学式) 兵庫県立大学への継承式
平成26年	11月	兵庫県立大学創立10周年・創基85周年記念式典

(表3) 平成26年度 淡水会本部役員一覧表

役職名	氏名	卒回(G:学部)	担当
会長	池野 忠司	G 18	
副会長	三木 元昭	G 15	大阪支部長
〃	濱田 昭生	G 18	本部担当副会長
〃	永井 豊	G 18	東京支部長
〃	太田 博史	G 22	淡水担当副会長
〃	岡村 武和	G 27	名簿担当副会長
〃	上野山泰規	G 34	神戸支部長
監事	岡本 俊二	G 30	公認会計士
〃	黒川 智哉	G 42	公認会計士
常任理事	福井常三朗	G 13	
〃	藤田 公昭	G 15	淡水
〃	八木 紘二	G 15	淡水
〃	児島 武	G 16	事業
〃	林 秀行	G 16	本部・事業
〃	木下 紘一	G 16	事業
〃	前田 勝彦	G 18	事業
〃	仲矢 公一	G 18	事業
〃	飯田 久夫	G 21	事務局長
〃	島田 佳典	G 22	名簿
〃	高尾 光俊	G 22	
〃	平田 紀男	G 22	淡水
〃	柴崎 義幸	G 27	淡水資料室
〃	向井 康裕	G 27	淡水
〃	高嶋 順滋	G 28	編集局長
〃	桑田 康子	G 30	淡水
〃	酒井 正雄	G 31	神商会長
〃	石井 武志	G 34	事業
〃	杉本 靖	G 41	事業
〃	青松 英俊	G 43	事業
〃	横屋由紀子	G 43	淡水
〃	三宅 直	G 45	事業
〃	森 大介	G 45	事業
〃	山本 邦人	G 48	事業
〃	安室 憲一	博49	事業
〃	江川 育志	G 18	名簿・事業
〃	有馬 昌宏	G 28	名簿・事業
〃	萩原 弘子	G 30	事業
〃	伊藤 国彦	博H 4	淡水
〃	山口 隆英	博H 7	
〃	友野 哲彦	博H 8	淡水
〃	古隅 弘樹	博H 13	本部・事業
〃	加納 郁也	博H 16	淡水
相談役	瀧川 博司	G 6	